

第2回検討委員会議事録

(平成28年9月14日(水) : 於「いな穂」)

◇冒頭、住田理事長より、現行の制度下における重度障害者(強度行動障害)に対する支援体制及び報酬に対する算定基準(加算のしくみ)と各県・本県の状況並びに尚恵学園の対応状況などについて詳しく説明された。

- ・ 去る7月26日に神奈川県相模原市の津久井やまゆり園(県が設置し社会福祉法人が指定管理者となって運営)で元職員による殺傷事件が発生したが、いま、株式会社やNPO法人(特定非営利活動法人)などが続々とまた大規模に福祉事業に参入している情勢の中、ややもすれば膨大な資金を投入し無理な運営体制による施設経営がなされる傾向が現れており、それは好ましいことではない。
- ・ このような社会情勢の中にあって、当学園が将来にわたってどのような使命を果たしてゆくべきか、それにはどのように施設経営を行うべきか、真摯に考えながら十分な議論をしてほしいと話がなされた。

1. 全体スケジュール及び検討スケジュールについて

◇当委員会の着地点を踏まえた年度スケジュールを資料①及び②により確認。

◇報告書の策定及び役員会への報告等スケジュール

- ・ 8月25日に開催された役員会(理事会・評議員会)において、来年3月の役員会に検討結果を報告することを説明し了解を得た。
- ・ この報告にあたっては、「尚恵学園の在り方について:報告書」として検討結果をまとめたものを理事会に提出し説明することになる。
- ・ この報告書の内容の骨子は、現時点では資料①表にあるような内容を柱に考えていきたい。
- ・ なお、役員会で報告が承認された後には、役員会の意見を元に加筆・削除等の修正し、住田理事長の序文を掲げた『基本構想』に仕上げることとしてはどうか。
- ・ 基本構想の計画期間は、通常10年~50年。そこで、今回の基本構想の計画期間を思い切って40年先(=尚恵学園創立100周年の時期)までをも見つめたものと位置付けてはどうか?
例えば、この報告書を「SJKネットサービス100年構想」と名付けることなど、構想の名称も後には考えたい。

2. 当面の作業、委員の役割分担について

◇当委員会の年度内のスケジュール上、

- ①報告書作成
- ②職員アンケートの実施・とりまとめ
- ③先進地調査

については、各委員の役割分担のもと実施することが決まった。

- ・報告書作成（執筆）・・・これは、委員会での検討結果をもとに報告書としてとりまとめるもので、尚恵学園の現状と課題、将来の姿、拠点整備事業の提案など、恐らく 30 ページくらいになる。

執筆担当者は、役員会で説明を行うことになる。大変だが、委員会開催とは別のところで作業を進める。

- ・職員アンケートの実施・・・アンケートの実施については、第 1 回検討委員会で提案された。若い職員の考えや意向把握のためのアンケートを実施しその結果を在り方検討結果に反映させるもの。アンケートは、回収後の集計も大変な作業となるため報告書作成班も加わった役割分担となった。

- ・先進地調査・・・調査先の選定。また、調査を行う委員について調査班の編成。

*調査班が決まれば、各班毎に先方と調査日程などの連絡調整を行う。

※2～3人1班で3班くらいか・・・？

3. 在り方検討（本題）

(1) 社会福祉法人改革（資料により確認）

- ①「社会福祉充実計画」を作成する必要がある可能性があるが、それは、全体スケジュールで確認した 29 年度作業となるであろう「基本計画」とかぶるものとなる。

*日中活動拠点づくりに関する基本計画＝「社会福祉充実計画」

になるので、この「社会福祉充実計画」は、在りかた検討委員会の業務とする。

- ②「地域における公益的事業」はお金のあるなしに関係なく、社会福祉法人の「責務」となる。「義務」ではないので、やらなくてもかまわない。

- ・「公益事業」も同じ。特別に何か行うことを考える必要はない。⇒我々は、これにはまったくとらわれなくて、制度の在り無しに関係なく、地域で果たす役割を検討しなければならない。

(2) 地域との関係性について（資料（土浦都市計画図）を元に確認）

尚恵学園の施設、神宮寺、観音寺、GHは、市街化区域と市街化調整区域、用途指定区域と無指定の区域など微妙な境界で仕切られた位置にある。

さらに、都市計画道路の整備計画があり、いずれは旧成人寮の跡地は分断されることになる。

しかしすぐには出来ることはないので、都市計画道路のことは考えないで、拠点づくりを考える。

ただし、都市化が進むと、やがて地域の中で利害や考えの違いが出てくることが多々発生する。そのとき、尚恵学園がこの地域にとって無用だと思われるのではなく、尚恵学園がこの地であって良かった、利用者さんがここにいてくれて良かった、と思ってもらえるような事業活動を提案するべきである。

(3) 日中活動支援について

①課題について

いまスタッフは日中活動の支援と入所者支援を一緒に行っているが、これらは分けて行うことが良いのではないかと、といった意見を皮切りに、職員、役割の明確化や若い職員の能力の引き出し方、さらにはそこから日中活動拠点整備の必要性に及ぶような意見、検討が行われた。

②旧成人寮跡地について

旧成人寮建物配置図を元に、今後の撤去工事の手順に関わる自活寮（ぼたん）の電気、給水、汚水排水管理設状況等や切り回し方法等について確認を行った。跡地利用にあっては、地域との関連性を十分意識したうえで、利用計画を提案するべきである。

③ その他

次回第3回検討委員会は10月12日（水）、に課題の抽出取りまとめ及び職員アンケート内容の検討。（次回で課題の整理を終わる。）